

## ■内視鏡摘除手技の標準化・プロジェクト研究進捗状況

### 1) 「内視鏡的摘除大腸SM癌非追加手術症例の中期予後」

→ 結果は大腸癌研究会ホームページに掲載済

(参照：Digestive Endoscopy 2011: 23, 190-194)

### 2) 「最大径 20 ミリ以上の大腸腫瘍に対する各種内視鏡切除手技の局所根治・偶発症に関する多施設共同研究（前向きアンケート調査）：前向きコホート研究」

→ 症例登録は2010年12月で終了し、半年後と1年後のサーベイランス大腸内視鏡検査が進行中。

#### 【最終エントリー状況】

国立がん研究センター中央病院	318人
国立がん研究センター東病院	155人
市立旭川病院	119人
癌研有明病院	132人
久留米大学	61人
虎ノ門病院	31人
広島大学	200人
佐野病院	59人
昭和大学横浜市北部病院	160人
大阪府立成人病センター	163人
大阪鉄道病院	35人
調布外科・消化器科内科	25人
帝京大学	24人
東京女子医科大学	110人
藤井隆広クリニック	6人
福岡大学筑紫病院	85人
北里大学東病院	91人
秋田赤十字病院	41人

合計 1,815人

(一括切除 1331人 : 分割切除 482人, 記入漏れ1人, 中止1人)

症例登録後、半年後と1年後に大腸内視鏡検査サーベイランスを行っているが、2011年末で終了予定。すべてのデータを回収し、局所遺残再発（局所根治性）、偶発症（安全性）などについて解析予定。なお、初回治療時の臨床的事項については、そのデータの一部を今年秋の UEGW (Stockholm) に演題申し込み済み。